

【4学年のまとめ】

1. 学年の取組

本学級の児童は、友達と仲良く遊んだり、協力したりできる児童が多く、友達と何かに一緒に取り組むときにも優しく声をかけることができる。気の合う友達と仲間を作り始めている様子もあるが、席替えや総合のグループ活動等を行いながら、多くの友達と関わるようになってきている。その反面、仲の良い友達と遊んでいるにもかかわらず、お互いの利害にこだわってしまいトラブルになることも少なくない。また、親友についてのアンケートを実施したところ、親友と呼べる仲の良い友達を持つ児童が全員だったが、「なんでも話せるか・間違いを伝えられるか」という問いに対しては、「けんかになってしまうのではないか」「傷つけてしまうのではないか」の思いから親友に対して言うことができないという児童がいた。そして、結果をまとめていくと、親友に対して伝えられる理由も伝えられない理由も友達と違っての行動だということが分かった。そこで、これまで気付いてきた関係性を大切にしながらも、間違いを伝えることも友達として大切な気持ち・行動であるということ、授業を通して育むことをねらいとした。

本時では、仲の良い友達に対して自分ならどうするかと主人公のことを自分事として捉え、周りの友達と意見を比べ合う手立てとして「心のものさし」を取り入れた。葛藤場面において、ネームプレートを使い、自分の意思表示をさせることで、クラス全体の様子や、誰がどんな思いを持っているかが視覚的に分かりやすだけでなく、微妙な位置の違いからさまざまな考え・思いを引き出せると考えた。また、展開部分の後半では、始めに思った位置から変化し、ネームプレートを動かしたい児童がいれば動かさせて、どのような理由から動かしたのかを聞き、より「友達」についての考えを深めた。

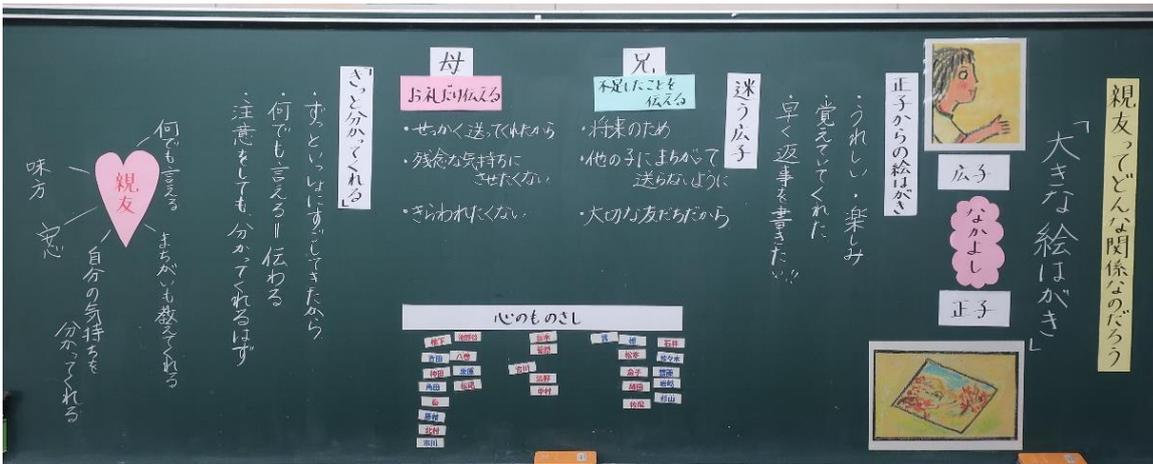
2. 授業実践について

主題 内容項目【B-(9) 友情・信頼】

本時のねらい 友だちと互いに信頼し合い、ときには注意し合いながら、友情を深めてこうとする心情を育てる。

教材名 大きな絵はがき (出典「新しい道徳4」東京書籍)

授業者 4年2組 本田 奏



【授業の流れ】

- ①クラスで行った親友についてのアンケート結果を知る。
- ②アンケート結果から本時のねらいを知る。
- ③離れてしまった親友の正子から絵はがきが届いた場面について話し合う。
- ④代金が足りず、そのことを伝えるかどうか広子が迷う場面について話し合う。
- ⑤「きっと分かってくれる」と広子が返事を書き始めた場面について話し合う。
- ⑥課題に対して、自分なりの考えを持つ。



児童の振り返りより

- ・親友だからこそ伝えられることがあると気付いた。
- ・今までいいことしか言えてなかったけど、友達なら言わなきゃいけないときもあったと思った。これからは少し言えそうな気がする。
- ・自分も相手も大切にできる関係が親友だと思った。
- ・相手を考えて行動することの大切さを感じた。

指導内容（富士見市立みずほ台小学校 鈴木孝雄 教頭先生）

- ・「心のものさし」を使ったことで、子供たちが自分の思いの立ち位置を確認できるだけでなく、友達がどんな考えなのかが視覚的に分かりよかった。
- ・教師としても、「心のものさし」を使い、子供たちがどんな考えを持っているのかを分かっただけで授業を進められることも良かった。
- ・今回の題材では2つの立ち位置から考えたが、「2人は本当に友達なのか」というテーマで授業を進めたり、複数教材から自分にとっての友情を考えるものもあり、様々な授業展開をしていく必要がある。
- ・題材の内容を子供たちが捉え違えないよう、教師の軌道修正が必要だった。
- ・今回は題材の最後を知らない形で授業を進めたが、いざ結末を知った時に「自分が正解・不正解」と感じてしまうこともある。結末を知ってから、内容を深めても良かったのではないかな。
- ・担任はあくまでコーディネーター役で、子供たちの発言で授業が進められるとよい。

3. 成果と課題

- 子供たちがネームプレートを使って思いを表すことができ、気持ちの微妙な違いを視覚的に捉えることができたことがよかった。
- 主人公のことを自分のこととして捉えて、自分の思いを持つことができていた。
- お互いの意見に質問をする時間を取ったことで、子供たちが話し合い・比べ合う時間が作れた。
- ▼中学年としては「お互いの考えを比べ合う」ことを目指しているのでも、子供たちの考えに対して教師がどんどん切りかえしの質問をして「ドキッ」とさせるような授業展開をするといいたいだろう。
- ▼子供たちが動く活動があったので、座席の配置も様々な方法を試すとよい。コの字型にするのであればお互いの顔が見えるように配慮する必要がある。